

# 乳幼児の予防接種スケジュール例 ~お子さんの予防接種の計画を立ててみましょう~

ワクチンの種類		接種チェック	0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	15か月	18か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳以上	
定期 接種	不活化	<b>B型肝炎</b>			①	②				③																	
	不活化	<b>ヒブ</b> (インフルエンザ菌b型)			①	②	③								④												
	不活化	<b>小児用肺炎球菌</b>			①	②	③								④												
	不活化	<b>四種混合</b> (DPT-IPV)			①	②	③								④												
	生	<b>BCG</b>							①																		
	生	<b>MR</b> (麻しん風しん混合)													①								②				
	生	<b>水痘</b> (みずぼうそう)													①		②										
	不活化	<b>日本脳炎</b>																		①	②	③				④	
	不活化	<b>二種混合</b> (DT)																									①
	不活化	<b>子宮頸がん 予防ワクチン</b> (HPV)																									① ② ③

27日以上の間隔をおいて2回接種した後、第1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回接種。

こちらの接種例は、生後2か月以上7か月未満で接種を始めた場合の一例です。7か月以上から接種を開始した場合は、接種回数が変わりますのでご注意ください。

20日以上の間隔をあけて、初回の3回を接種。3回目の接種から6か月以上の間隔をあけて(標準として3回目接種後12~18か月の間に)追加接種をおこなう。

小学校就学前1年間(幼稚園・保育園の年長に相当)の期間内に接種。

9歳~12歳の間に接種。

11歳~12歳の間に接種。

小6~高1相当の間に3回接種。

・生ワクチンは接種後27日、不活化ワクチンは接種後6日あければ、他の種類のワクチンが接種できます。

・こちらのスケジュールは一例です。予防接種は接種を開始した年齢によって接種回数が変わるものもあります。接種の際は医師と相談のうえ、保護者の責任のもと行ってください。

・定期接種の対象年齢でない場合や、接種間隔があいていない場合の接種は、任意の予防接種となります。任意接種の費用は医療機関ごとで異なり、自己負担となります。

定期予防接種の対象年齢

←①→ 推奨接種時期(数字は接種回数)